

LET COMMUNITIES LEAD



コミュニティ主導でいこう 世界エイズデー2023

コミュニティが主導すれば、(訳者注:公衆衛生上の脅威としての)エイズ終結は可能になります。HIV 対策の最前線にいるのは、HIV 陽性者や HIV のリスクに直面している人たち、HIV に影響を受けている人たちのコミュニティです。コミュニティ組織の力があれば、人を中心にした保健サービスが利用しやすくなります。人びとの信頼を築き、新たな工夫を生み出すのはコミュニティです。政策やサービスの実施状況をモニターし、サービス提供者が説明責任を果たせるようにするのもコミュニティなのです。

ただし、現状のままでは、コミュニティがその力を十分に発揮することはできません。資金不足に苦しみ、政策や規制に妨げられ、能力的な制約を受けているのです。市民社会に対する締め付けと社会的に排除されやすいコミュニティへの人権弾圧が、HIV の予防・治療サービスの普及を妨げてもいます。こうした障壁を打破すれば、エイズ終結に向け、コミュニティ主導の組織が世界の HIV 対策にさらに大きく貢献することが可能になります。

世界エイズデーは、コミュニティの成果を称える記念日というだけではありません。コミュニティが主導的役割を果たせるよう支援するための行動の機会でもあるのです。2023 年世界エイズデーは、コミュニティが持つ力を最大限に引き出し、エイズ終結を可能にすることを強調しています。

- コミュニティのリーダーシップは、HIV に関するすべての計画とプログラムの策定と資金確保、実施、モニタリング、評価において、中心的役割を果たすべきです。「私たちに関係のあることを私たち抜きで決めることはできません」
- コミュニティが必要なリーダーシップを果たすには、十分な資金を確保し、適切な支援を行い、きちんと対価が得られるようにしなければなりません。「エイズの流行が続けば、エイズ終結よりもそのコストは高くなります」
- コミュニティの主導的役割を妨げる障壁を取り除く必要があります。世界が HIV 対策を進めるには、コミュニティ主導で HIV サービスが提供できるようにし、市民社会の活躍の場を確保し、社会から排除されがちなコミュニティを含むすべての人の人権を守れる環境が必要なのです。「有害な法律を撤廃し、コミュニティの力になれる法律をつくっていきましょう」

世界エイズデー自体がコミュニティ主導なのです。世界各地でイベントを企画し、それぞれのニーズに合わせてメッセージを送れるようにしましょう。ソーシャルメディア上のグループを通じて UNAIDS が写真やビデオ集約することで、万華鏡のように様々なイベントが同時進行していることを多くの人を知ることができます。決意と希望を新たにし、コミュニティによる行動への呼びかけに応じることができるのです。

世界エイズデーに向けたキャンペーン素材は、UNAIDS の特設ページで 11 月から共有できるようになりました。素材の配色やフォントは、7月に発表した GLOBAL AIDS UPDATE2023『エイズ終結への道』(UNAIDS 年次報告書)と響き合っています。メッセージの継続性を重視するからです。画像も『エイズ終結への道』と響き合うデザインコンセプトを採用しましたが、人びとの列を上から見下ろす視点から、見上げる視点、より正面から見る視点へと移行しました。コミュニティのリーダーシップをより強調できるようにするためです。ただし、素材はそれぞれの国やコミュニティの事情にあわせて工夫を加えつつ使うこともできます。

変化は一瞬にして起こるのではなく、動きの中で生まれてくるものです。「コミュニティ主導でいこう」というメッセージは、特定の 1 日だけ鳴り響けば、それでいいというわけではありません。これから積み上げられていく活動の核となるものです。12 月 1 日の世界エイズデーに向けて、11 月下旬には UNAIDS が世界エイズデー報告書『コミュニティ主導で行こう』を発表します。そして、その動きは 12 月以降も引き継がれていくのです。

「エイズ終結は可能です。手の届くところにあります」と UNAIDS のウィニー・ビヤニマ事務局長は述べ、次のように続けています。「エイズ終結への道を歩むには、世界がコミュニティ主導の活動を支えていく必要があります」

日本語仮訳：公益財団法人エイズ予防財団

